



「よく学び 心ゆたかに やりぬく子」

新座小だより



開校22年目

埼玉県新座市新座3-4-1 TEL 048-478-2760
<http://www.c-niiza.ed.jp/e-niiza>

令和7年度11月号
児童数：289名

運動会で得られた力と これから育てたい力

校長 小俣 優子



3・4年生による「ソーラン節」

◆運動会で得られた力

あいにくの天候により土曜日の開催ができませんでしたが、28日火曜日に無事に運動会を実施することができました。延期になった影響が子供たちに出なければよいなと少し心配していたのですが、運動会が始まると、演技や競技で、自分たちの精一杯の力をしっかり表していました。

運動会ですから、走ったり、投げたり、引っ張ったりといった“運動の力”を高めることはもちろんですが、それらに加え「最後まであきらめないこと」や「周りと協力すること」など、広い意味で“自分を高めること”に重点をおいて取り組んできました。

徒競走では、どの子もゴールまで力いっぱい走り切りました。前を走る子と差が開いても、あきらめずに走り抜ける友達に、最後まで声援を送り続ける仲間の様子も見られました。

団体競技では、勝つことを目指し、集団の中でも一人一人が力を抜かず全力で取り組みました。仲間と声を掛け合い、本気で競技に取り組む姿に、応援席からも大きな声援と拍手が送られ、子供たちのやる気に一層火を付けていただきました。

表現では、学年が上がるにつれ、一人一人の動きの美しさや力強さに加え、全体の調和も大事な見せ所になります。拍や歩幅を合わせ、互いの動きを感じながら動かなければなりません。周りを気遣い、全員で心をつないで練習してきたことが本番の演技で発揮され、子供たちがやり切ったという顔で最後のポーズを決めていたのが印象的でした。

今年は得点制を導入したため、勝って嬉しい子もいれば負けて悔しい思いをした子もいました。

ただ、「負けたけれどもやり切った」「仲間と協力できてよかった」「ダンスが難しかったけれどもうまくってよかった」といった前向きな振り返りが大変多く、子供たちは勝敗を超えた、教科の学習では得難い尊い力を得ることができたようです。この経験を今後の学校生活にも生かしてまいります。

保護者の皆様や地域の皆様の温かい声援により、笑顔と拍手があふれる素晴らしい一日となりました。心より感謝申し上げます。

◆「ちがい」を認める力を育てる

運動会は終わりましたが、この後も校外学習や持久走記録会、総合表現活動発表会・・・など大きな行事が続きます。

学校はさまざまな考え方や感じ方をもった子供たちが集う場所です。性格や得意なこと、文化、価値観など、どれ一つとしてみんなが全く同じといったものではありません。「行事が楽しみ」「またみんなでがんばりたい」と思う子もいれば、「大勢の前は緊張する」「みんなと一緒にやるのは苦手」といった子もいます。

学校として気を付けたいのは、無意識のうちに「みんなと同じでなければならない」といった空気が生まれ、多数派の意見があたり前、少数派の意見が通らないといったことにならないようにすることです。

そのためには、自分と違う考えや意見があることに気付かせること、そのうえでどのように折り合いをつけるかを考えさせることが重要です。

子供たちが互いの「ちがい」を認め合い、少数派の考えにも耳を傾けられる、そんな温かい学校づくりに引き続き努めてまいります。